

BSOの 情報てんこもり

2025年07月24日号

制作・発行：(株)BSO 支援企画部

TEL：(06)6351-5836

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆自責経営

あらゆる問題の原因は自社にあると捉え、それらを自社が取り得る方法・手段で解決していこうとする経営思考を「自責経営」と呼ぶ。

しかしながら、現実の多くの問題は直接的には他責要因に起因するものも少なくない。とはいえ、そうした他責的な問題であっても、タイミングよく先手を打っていれば、自社の問題として発生することはなかったケースも多々ある。また、当初は自社とは無関係と思いついて放置していた事柄が、いつの間にか自社に大きな影響を与える問題へと変化することもある。

どんなに大きな問題でも、必ずその始まりには小さな兆候がある。初期段階での要因分析は、それほど手間のかかるものではない。関係がなさそうに見えても、気になることは記録に残し、タイミングを見て要因分析を行う習慣を持つことが望ましい。こうした分析においても、否定的な見方をせず、前向きな視点で「チャンスからの招待状」として捉える思考を持った人財、そしてそのような風土が根づいた企業づくりが、自責経営を実践するうえで重要である。

◆現場力革新研究会（8月度）

テーマ：「幸せ7人家族」

基本機能+魅力機能の抽出大会

日時：8月26日（火）

14：30～17：00

場所：BSO大阪ビル内会議室

参加費：無料

参加者人数：7人まで

参加条件：申込順

《車座》

時間：17：30～20：00

場所：BSO大阪近隣のお店

参加者：研究会参加者で自由参加

参加費：実費（事後請求）

※研究会お申込みはBSOまで

◆機能研究から取り組む革新

ビジネスを白紙に戻して考える一つのやり方としてBSOには「現場力革新手法」というものがある。

- 1) 現場のあらゆる人・物・情報・機械設備の動きを抽出し、その機能を検討し機能体系図を作る。
- 2) この機能体系図の基本機能と魅力機能だけを残して、目指したいビジネスの機能体系に創り替える。
- 3) この目指すビジネスの機能体系図の最終機能から方法手段のアイデアを発想し、一対比較法などを使って最良の方法手段を捉える。
- 4) 捉えた方法手段を親和集約法などを使い、方法手段を統合化して革新ビジネスの体系と新構造を得る。

◆ハノイ工科大学機械工学部と日本の中堅中小企業とが産学連携活動開始

工学は、未知の方法手段の中から再生可能な仕組みを見出す行為であり、個人的技能を体系化して技術化する行為であると考えている。このような観点から、工学の発展には、物づくりを担う産業社会と工学系大学との連携が不可欠だと考えている。

BSOはこれまで時間的にも領域的にも深く関わってきたベトナム社会において、「産学連携」に強い関心を持って取り組んできた。特に、日本の中堅・中小企業には「日本らしい物づくり」に関する独自の技術や知見が多数存在しており、それらをベトナムの主要な工科系大学との連携に活かす取り組みを推進している。標題は、日本の中堅企業とハノイ工科大学が産学連携を通じて結んだプロジェクトである。

<締結プロジェクトのプログラム>

- 1) 日本語・文化と日本技術に関心を持ち、大学の推薦を受けた学生
- 2) 提携企業に馴染む2、3名程の学生を企業が選定
- 3) 1年間を通して産学で研究するプログラム（学内机上研究+来日現場実験・実習+帰国後研究結果まとめ）検討
 - (1) プログラム検討 2ヶ月
 - (2) 学内机上研究 5ヶ月
 - (3) 来日研究（実験・実習・見学） 3ヶ月
 - (4) 帰国論文まとめ・発表 2ヶ月

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々に知っていただく為に発信しております。（お問い合わせは shienkikaku@bso.co.jp まで）

